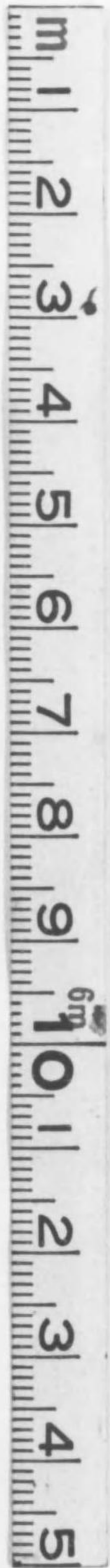


特 252

750



始



750

大戦後の歐洲婦人

文學博士

野上俊夫氏述

山口縣

大戦後の歐洲婦人

京都帝國大學教授

文學博士 野上俊夫 講述

皆様も御承知の如く歐羅巴に於きましては、大正三年から大正七年迄約四年四ヶ月に亘つて大戦争があつたのであります、此の戦争は古今未曾有の大規模でありまして人を殺す事約一千万人でありました、それから物質上の損害は殆んど分らないのであります、凡そ計算する所に依りますと五千億弗と云ふことになつて居ります、一弗は邦貨の約二圓に當りますから一萬億圓位に當るのであります、一寸是だけの數字は吾々の頭の上にはどの位のものであるかと云ふ事が浮ばぬのであります、大正十二年に我國の東京、横濱を中
心として大震災がありましたのに比較して見ますと稍々解るだらうと思ひます、あの時に死んだ者が約十萬人位でありまして、物質上の損害は是亦十分には分りませぬけれども大體百億圓と云ふ事を其の當時の新聞等と言ふて居たのであります、假りにさうだと致しますと、大正三年からの世界戦争では其の死亡者の數がちようど十萬人の百倍、即ち約一千

萬人あつたのであります、それから物質上の損害が百億の約百倍、即ち一萬億圓と云ふ事になつて居るのであります、で大体に於て此の世界戦争の人口の損害と物質上の損害と云ふものは双方とも關東大震災の約百倍であると言ひ得るのであります、即ち歐羅巴に於ては四年四ヶ月の間に關東大震災が百回あつた事になる、即ち一月に二度、二週間に一度づゝ關東の大震災があつた程の大きな損害が約四年間以上續いたと云ふ事になるのであります、吾々が日清戦争後に又日露戦争をやりましたので随分大戦争と思ひましたが、今度の戦争に比較して見ますと、殆んど子供の戦争ゴッコのやうなものでありまして、云ふに足らぬのであります、吾々は關東の震災以後最早六年になります、まだ復興事業と云ふものは其の緒に就いた位であつて、極めて遅々として居ります、此の歐羅巴の戦争は關東の震災の如く只一國のみに損害があつただけで無くして、二十ヶ國位で分擔して居るのでは御座りますけれども、兎に角關東の大震災のやうなものが一月に二回づゝ五ヶ年間も續いたと云ふ事を考へて見ますと如何に惨害が大きかつたであらうかと云ふ事が想像が着くと思ふのであります。

私は偶然戦争當時に歐羅巴に居りまして其の當時の英國或は佛蘭西或は獨逸當りで戦争

と云ふものに如何に苦しんで居るかと云ふ、其の状態を見て参りましたのであります、併しながら其の當時はまだ戦争の最中であつて國々の人々が非常に緊張して居つたので戦争の惨害と云ふものは、まだ其の當時は著しく分らなかつたのであります、只時々自分の住んで居る町に敵の飛行船が來て爆弾を投ずるやうな事はあります、けれども是も却つて景氣が良い位に考へて居つたのであります、昨年歐羅巴に参りまして戦後の歐羅巴の状態を戦争前の状態と比較して見ますと云ふと、成る程大戦争が非常に大きな影響を歐羅巴に與へたものであると云ふ事を沁々と感じたのであります、私は自分の専門の上から主として學校の視察教育の視察を主と致しましたが、暇の時に歐洲戦争の跡を見物して歩いたのであります、昨年の夏七月有名なベルダンの戦場を見に参りました時には、其の戦場の惨憺たる有様には、七月の夏の暑い時にも一寸膚に粟を生ずるやうな状態であつたのであります、此のベルダンの戦争は大正五年の冬の二月から初つて夏の八月に至りますまで、約半年間續いたのであります、其の戦争のあつた當時に私は恰度パリに居つたのがあります、其の當時のパリーの人々も非常に心配をして居つた事で今でも能く覺わて居ります、今度の戦争は御承知のやうに塹壕戦でありまして、恰度日本の日露戦争に於ける旅

順の戦争のような大規模の戦争が行はれたのであります、即ち敵も味方も進む事も退く事も出来ない持久戦に入つたのであります、で獨逸の皇帝は此の持久戦を如何にしてか佛の戦線を突破しようとしまして、殊に難攻不落と申す大要塞ベルダンに向つて數百萬人の獨逸軍をそこに持つて來まして、そこを無理に突破しようとし試みたのであります、それが有名なベルダンの戦争であります、此のベルダンの周圍には七箇の砲壘がありました、其の内二つは敵に取られたのであります、此の砲壘は恰も旅順の二百三高地の如きもので其のベルダンの東北の方面からして獨逸軍が非常な勢で迫つて參つたのであります、其のベルダンの戦争は半年の間續いたのですが、其の間毎日平均佛蘭西軍の撃つた大砲の數は約十六萬發以上であつたと云ふのであります、我國では日露戦争の時分に旅順で撃つた大砲の丸の數が約三萬發であつたと云ふ事ではありますが、ベルダンの戦争では毎日十六萬發以上であつたのであります、それも只佛蘭西軍の方からだけ撃つたのであります、一晝夜は二十四時間であつて、之を分に直しますと云ふと千四百四十分、之を秒に直しますと八萬八千四百秒でありますから佛蘭西軍から打つた大砲は一秒に二發あて佛蘭西から飛んだ事になるのであります、之を假りに獨逸の方からも此の割合で打つたと致しますと一秒間に

四

四發づゝ飛んだ事になるのであつて、それが約半ヶ年間續いたと云ふのでありますから是だけの數字で以て考へて見ても其の當時の戦争が如何に激烈であつたかと云ふ事が解るのであります、只今ベルダンに參りますと云ふと、ベルダンの砲壘の現狀は殆んど地上何物をも留めて居らぬ或る村があつたと云ふ所に行つて見ても殆んど其の家の土台すら見る事が出来ないであります、又鬱蒼たる木の生へて居た山が今では白色になつて、そこに褐色をした石が澤山ある山だけになつて又其の山が直經一間或は二間位堀れて砲彈の落ちた跡の残つて居る山だけであります、其の外に何物もないと言つて宜しいのであります、それに又鉄條網は實に見ゆる限り張つてあります、是は大体に三線に張られて居ります、一線は敵に最も近い塹壕の前に張られてあり、それから何町か離れて第二線が張られてあり、其の次に又何町か離れて第三線が張られてあります、是が味方だけでなくして、敵も同様に三列に張られて居る、其の鉄條網が今日も十年前と全く同一の状態に於て張られてある儘に残つて居る、それは此の鉄條網を取り片付ける費用がないからであります、そこら當り一寸土を堀つて石を取除けて見ますと、そこには砲彈の片や小銃の折れたのや或は軍刀の完全なのや折れたのが至る所に在るし又人間の骨がまだ幾らでもあります、私も骨を土

五

産に持つて歸りましたが、其の時に一人分の骨が完全に残つて居りました、是は獨逸の若い士官の骨であつて齒等は完全に残つて居る、是はまだ三十歳に成るか成らない士官であらうと思ひます、是等は今から十年前から今日迄まだ收容されずに何千里も遠方から参りました日本人の私に發見せられたのであります。斯う云ふやうな御話はすれば幾らでもあるのでありますが、此のベルダンの戦争が約六ヶ月間続いたのですが其の間に死んだ者の數が敵味方とも双方約五十萬人以上あつたと云ふ事であり、又此のベルダンの戦線は其の時五里であつたさうですが、其の二十軒の間に敵味方合せて百萬人死んで居たのであります、其の百萬人を二十軒で割りますと、一米平均五十人死んで居る割合で、それが約二十軒の間にあつたのであります、又ベルダンには至る所に墓場がありまして、其處に百萬人死んで居るのであります、その下に百萬人の人々が葬つてあるのあります、私の見ましたのは一ヶ所に二萬人を葬つた墓場であつたのです、恰度此のテールブルの高さ位に木製の十字架がありましてそれに各々氏名と所屬の隊とを書いてあります、それがずつと列んで立つて居りまして恰度稻の切株を観るやうな具合に整然として十字架の墓が列んで居る、そこに一人づゝ死んで居ると云ふ事を考へますと云ふと實に悲惨な感じが致します、

今度の大戦争は斯の如く大規模の殺戮を行つたものであります、其の大規模の殺戮の影響が十年経つた今日に於て非常に歐羅巴人を苦しめて居ると云ふ事は是は當然であると思ふ、歐羅巴戦争の僅かに百分ノ一にしか過ぎなかつた日本の關東の震災の跡始末が今に至るまで五年間でまだ殆んど出来て居らぬと云ふ所から考へて見ますと云ふと、歐羅巴の大戦争の跡始末が今日まだ殆んど手が着いて居らぬと云ふ事は決して不思議ではないのであります、

歐羅巴の戦争の影響が歐羅巴の總ての方面に行き亘つて居りますが、最も著しく吾々素人にでも感ずる事は、第一に歐羅巴に於ける人口問題と云ふことであると思ふのであります、私は昨年一月から夏頃迄半年を佛蘭西に過したのであります、佛蘭西は歐羅巴でも最も著しく戦争の爲に強く影響を受けた國であります、佛蘭西だけで戦死者の數は百三十六萬と言はれて居ります、其の外に戦死者でない死人は年々例年の通り出て居る、佛蘭西と云ふ國は御承知のやうに今でも人口の増加が少ないと云ふ事であつて、非常に國內の人々が憂慮して居つた、戦前の統計に依りますと云ふと、佛蘭西は年々約七十萬人の子供が生れる、さうして年々六十三萬の人間は死ぬるのであります、そこで僅か六萬人ば

かりの者が佛蘭西の人口の自然増加になつて行くのであります、是は戦前に於てさうであつたのであります、日本には御承知でも御座りませうが年々子供が二百萬人生れる、そして百二十萬人程死ぬ、即ち年々日本では七十萬の人口が増加して行く、昨年の如きは新聞で見ると九十何萬と云ふ人口が増加したのであります、故に日本の人口問題と云ふものは非常に八釜しくなつて來たのであります、それが佛蘭西では日本の人口の自然増加しか生れない、それに死ぬ數が年々六十何萬人ある、で佛蘭西の人口の増加は六萬人しかないのであります、是が佛蘭西の政治家と言はず教育家と言はず、總ての方面の先覺者の戦前から非常に心配されて居つたのであります、一体此の佛蘭西と云ふ國は十八世紀の始めに於ては歐羅巴第一の人口の多かつた國であつたのであります、所が十八世紀から十九世紀に至る二百年の間に於て佛蘭西は英國に追越され、又獨逸には無論敗けて伊太利には殆んど追ひ付かれやうとして居る、人口の點に於ては佛蘭西は二流三流の國に落ちて仕舞つたのであります、所が獨逸と云ふ國は非常に國勢が盛んであつて、殊に人口の増加は非常に早くて戦前七千五百萬人と云ふ佛蘭西に比較して見て殆んど二倍の人口を持つ事になつた、それが佛蘭西に對しては非常な脅威を感せしめたのであります、何が大切であると言つて

も一國の國を建て行く上に人間の數程大切なるものはない、佛蘭西と獨逸と云ふ國は昔から仲の悪い國であります、殊に一千八百七十年より七十一年に掛て普佛戦争をやつて佛蘭西は敗けて五十億の償金を取られたのであります、虎視睨々ルール河を間に狭んで向ひ合つて居た、何時攻めて來るか分らないのであります、所が一方は人口が段々増加して來るが一方佛蘭西の方では一向人口が増加しないで佛蘭西の識者は之を非常に心配して居つたのであります、所が今度戦争をやつた所が獨逸の人口も勿論減りましたけれども、佛蘭西の人口も非常に減たのであります、殊に戦争の翌年大正四年の統計に依りますと、年々七十萬人産れて居たのが、三十七萬人しか産れないと云ふ事になつて居て、それに年々六十何萬人と云ふ者は戦死者の外に死んで行くのであります、其の翌年には三十萬人しか産れない、其の翌年には僅かに二十七萬人しか産れないと云ふ状況であつて、四年四ヶ月の間に佛蘭西の全体の人口の減少が約百二十萬人、是が絶對に減つたのであります、又戦死者の方は百三十六萬人でありますから双方を合しますと、約二百六十萬人と云ふ人口が此の四年四ヶ月の間に減つたのであります、尙其の外に死は致しませぬけれども戦争の爲に不具者となつて動けない人間が随分澤山あるのであります、又此の戦争で死んだ人間は

多く最も生活力の強い働き盛りの四十歳頃迄の男子でありまして、之を計算に入れて勘定致しますと、佛蘭西は四年四ヶ月の間に四百萬人の人口が減つたのと同一の損失を受けて居るのでありまして、言葉を換へて申しますならば、今度の戦争の爲に自分の國の全人口の約一割を損したと言つて差支へない、是は佛蘭西に於ては何物にも代ゆる事の出来ない非常な打撃を受けたのであります、私は昨年佛蘭西の學校を澤山見たのであります、其の小學校の生徒と云ふ者は教室の隅の方に小さく固まつて居る、恰度戦争以後昨年までに九年目でありましたので戦争の済んだ年に生れた者はもう八歳になつて居る、戦争最中に生れた子供は十二、三になつて居る、恰度小學校で言へば一年生から六年生徒であります、其の子供の數は戦争の済んだ頃には實に平常の半分以下に減つて仕舞つたのであります、パリで小學校の數が四百程ありますが、約其の一割は學校を閉じて居るので、で何處の學校へ行つても校長が第一に言ふ事は、生徒が非常に減つて困ると言ひます、それで私は何時も日本で子供の數が殖へて今では日本人全体の小學校の子供が九百萬人も居て何れの村に行ましても學校が狭くて困るが、學校を建てるのに地方經濟は非常に苦しんで居ると申します、其の反對で佛蘭西では學校が廣過ぎて困ると云ふ事を嘆して居る有様

であります。

所が今日ではまだ小學校生徒が少ないと云ふ事を嘆するだけでありますから宜しいのであります、もう十年も経つと恰度昭和十二年頃になりますと今十歳の子供が二十歳になる、そう致しますと其の時の佛蘭西の兵隊の數はそれ以前に比較して、半分或は三分ノ一位に減る譯であります、是は佛蘭西の爲には非常に危険な時であつて、若し今後十年の後に獨逸が復讐戦を仕掛けて来るやうな事がありましたならば、佛蘭西は一度に一週間や二週間位でパリが陥落して仕舞ふかも知れませぬ、是は疑の無い事であると思ひます、是が今日佛蘭西の政治家が非常に苦心をされて居る所であります、で佛蘭西人はもう口癖のように今後十年と云ふ事を言つて居ります、若し吾々日本人がさう云ふ状態に居つたならばどの位吾々は心配するであらうかと云ふ事は思はれて来るのであります、佛蘭西は現にさう云ふ状態にあるのであります、それで佛蘭西では此の人口を如何したら殖すべきか、子供の死亡率を減らし得るかと云ふ事を研究して居るのであります、現に人口減少防止會と云ふものを作つて、此の牛乳をもつと廉くしよう、或は麩麵をもう少し廉くしよう云ふ事を研究する、その麩麵も日本の麩麵の値段の四分ノ一であるが、それをも廉くしよう

志して居るのであります、之をもう少し廉くして貧民に營養を取らせやうと云ふ運動が盛んに起つて居ります、殊に佛蘭西に婦人達が其の方面に努力をして居るのであります、所が一時佛蘭西の婦人と云ふ者は動もすれば學問とか、社交とか云ふやうな事を重んじまして、家庭をその次にする傾向が少し有り掛けたのであります、是は或る一部の者で日本人等の主として行きますパリとか、リオンとか云ふ大都會に於ける婦人がそうして歩いて居りますが、佛蘭西は從來農業國でありまして佛蘭西の農村と云ふものは、なかく堅實なものであります、今でも佛蘭西の農村に至りますと、子供を十人以上も持つて居るやうな母親は随分澤山あるのであります、佛蘭西全体から申しますと、人口が都會に集中して来て人口が段々減少するやうになりました、それも一時的でありまして、今日では其の間違ひであると云ふ事を悟つて、矢張り婦人の努むべき途は、第一の仕事は家庭である學者になるよりも、社交上に活動するよりも、一番大切な事は吾々の次の第二の國民を作る事であると云ふ考へが戦争以後非常に盛んになりました、今日では其の方面に向つて一生懸命に努力して居るのであります。

所が今日日本で段々婦人の自覺と云ふような問題が起つて参りました、今迄のやうに婦人を家庭に押込めて置かないで婦人が社會に出て活動した方が宜しい、男子と同様に學問して行くとか或は職業に従事すると云ふ風が流行し出したようでありましたが、歐羅巴でも十九世紀の末位迄はさう云ふ考がありましたけれども、今度の歐羅巴婦人の自覺と云ふものは、極めて新しいものであります、其の昔十九世紀頃の婦人運動は恰度今日日本の婦人活動の目的が男子に對するに有ると同様であつたのであります、例へば男が勉強するから女も勉強して来る、又男が辯護士になり、醫者に成るから女も辯護士や、醫者になり巡查になつても差支へなからうと云ふやうな考であつた、其のやうに總て女の活動の目的を男に置いた、所が二十世紀になりました、殊に今度の戦争の影響と致しまして、婦人の思想が全く變化して仕舞つたのであります、で本當に婦人運動の先頭に立つ人は婦人運動が男の眞似をするならば婦人である必要はない、若し假りに男の眞似をしようと思つても力が弱いどうしても男と競争する事は出来ない、中には人見絹枝さんのやうな人は世界的の記録を作つたのですが、是も男を對象してでなく世界の婦人のレコードである、世界の男のレコードに比較して見ますと、二尺も違ふ、で婦人と男子と同様に走つたり飛んだりする事の競争をすると云ふ事は結局愚な事である、恰度牛が馬と同様に早く走らうとして競

争するやうなものでありまして、牛は早く走ると云ふ事は出来ないのではありません、牛は矢張り徐々に歩いて重い車を曳くのが特色であります、それが馬と同様に早く走る事を練習したら、牛は牛たる特色を失つて仕舞ふものであります、これと同様に女が男と競争すると云ふ事は愚な事である、それを愚な事であると云ふ事を歐洲の婦人は氣付いたのであります、それで婦人の働くべき途はどうしても子供である、子供を中心としなければならぬ是が婦人の生命である、此の男と女とは何れの社會に於ても半分づゝあると云ふ事は當然の事である、男は現在に於て働く、そして自分の妻や子を養ふのであります、妻、即ち女と云ふ者は現在よりも寧ろ將來に向つて働く、即ち自分の子供を育て、行く、其の子供を賢く健やかに能く育て、行つて、而して將來の社會を現在の社會よりも宜くして行くこと云ふことが女の任務である、そこに男女の根本的分業があるのであります、其の意味から申しますと、女の仕事の方が寧ろ永久的であつて或は高尚であると言ひ得ると思ふ、所がさう云ふ先天的の任務を持つて居つて、身体や心がさう云ふ風に出来て居る女が、十九世紀に於ては男と同様に外に出やう外に出てやらうとしたのであります、之を男と同様な力技をしやうとしたのであります、男と同様に工場に出たり、事務所に出たりして男と同様

に競争をしなければならぬと云ふ風に考へたのであります、それが實は愚な事で、さうしても男と競争する事は出来ないのであります、其の事を此の世界戦争以前の婦人が驕然と悟つたのであります、さうしても是は職業婦人などと云ふ風な者では其の家庭が面白く行かない、それは成程月々何十圓と云ふ金を取るのて現在の生活は幾らか樂にはなるが、其の代りに子供は放つて置いて家庭教師に委して置くこと云ふ風で、さうしても其の子供は我儘で先づ仕事は出来ないと云ふ事になる、さうなると云ふと月々何十圓と云ふ金が入つて多少樂ではあるが、自分等の後を繼ぐ子供の性質が悪かつたとすると、却つて損である斯う云ふ事を現在の新しい婦人は氣が付いて來たのであります、併し歐羅巴の今日の婦人只家庭として子供を愛し家庭を愛すると云ふ事は日本の今迄の婦人と同様であります、併し其の家庭としての仕方が稍々違ふ日本では家庭婦人と社交婦人と云ふものが分れて居る日本の家庭婦人と云ふものは家庭にはかり引込んで子供を一生懸命に育てるので外出もしないので馬鹿になつて仕舞ひ、時勢に遅れて仕舞ふのです、所が又一方外出する社交婦人と云ふ者になると、或は怪しいダンスをして見たり、或はカフェーに入入したりして一向家庭を顧みない、で子供は自然と放つて置き勝ちになつて來る、で其の家庭に入つて見る

と實に驚くべ程亂れて居るさう云ふやうに二通りに分れて居る、で一方保守的の家庭婦人があるかと思ひますと、他方には又極めて急進的な社交婦人と云ふものがある、所が歐羅巴に於ては最も家庭を重んずる婦人が、又社交的にも働くこと云ふ事になつて居る、是も十八世紀には恰度今日の日本の婦人と同様に二通りに分れて居た、十九世紀にも分れて居たが其の大切にする人が又社交的にも働くやうになつたのであります、それは其の筈だと思ひます、現在の社會と云ふものは、家庭を能くしやうと思つて家庭だけ引込んで居つては、決して家庭を能くする事は出来ない、家庭を能くしやうとすれば確かに或る程度迄は出て働かなければならぬやうになつたのであります、自分の子供を病氣にさせては駄目であり、例へば此の山口町に虎列刺が流行つて來ないやうにしようと思すれば、第一に日本の國內に虎列刺を入れないやうに下關とか神戸とかで防ぐこと云ふ事が必要であります、さうしなければ直ちに自分の愛する子供に傳染して來るのであります、それで婦人衛生會と云ふものを作つて山口町に傳染病が入つて來ないやうに盡力するのであります、で自分の子供を能く育てやうと思へば同じ町に不良少年が居らぬやうにしないでなくてはならぬ、それは婦人矯正會と云ふものを作つて斯ふ云ふようなものを無くしようと思ふ事に努めるのであります、

是が新しい婦人であります、所が同じ社交婦人と云つても十八世紀頃の婦人は大變今の婦人とは意味が違ふのです、昔のはダンスを踊つた非常な輕薄な社交でありました、所が現在の社交はそんな輕薄な社交ではない、眞實に社會を健全ならしむる爲に働くのであつて、是は本當の婦人としてでなければ出来ないやうな社交をやつて居る是でなくては此の傳染病も何も無くする事が出来ないそれが近頃殊に歐羅巴戰爭の後を受けては本當の家庭の婦人が社會的に働いて居るのであります、そして本當に自分の子供を善くしようとするのであります、此の點は日本も早晚さういふやうになりつゝあると思ひます、是は今日御集りの御婦人は日本の家庭婦人と社交婦人と一緒にさす事に努力を願ひます此の意思があつてこそ初めて婦人の活動の舞台が開けるのであります、只婦人會に出ても着物の品評會ばかりして居たりするさういふ下らない事のないやうに御盡力を願ひます、歐羅巴では今日自分の子供を善く健やかに賢く育てるといふ事に向つて、此の婦人は活動して居ります、で歐羅巴の今日社交の中心は自分の子供に對する母性愛が出来るのであります、従つて歐羅巴の婦人の社會的活動は日本の婦人等の活動に比べると非常に結果が上るのであります、殊に佛蘭西の婦人等は今如何にしたならば、自分の子供を廻す事が出来るか如何に

したならば自分の子供を殺さないやうに出来るかと云ふ事はかり考へて居ると言つても差支へないと思ひます、それが日本に於ては之と正反對に、如何したならば人口を減らす事が出来るかと云ふ事を考へて居る、即ち人口問題で八釜しいのであります、是は食糧が人口の増加する割合に増さないでどうしたら人口を調節する事が出来るかと云ふ事を考へて居る、實に矛盾した事を考へて居ります、實際何が大切と言つて此の人間より大切なものはありませぬ、今日日本の強味は何であるかとやふと日本の土地は狭いし工業をしやうとしても原料はなし、又資本も無し、第一に頼みとするものは此の人間より外に無いのであります、人間が年々百萬近く殖へと云ふ事が、是が日本の強味であります、此の強味を無くしよう云ふやうな、人口調節と云ふやうな事をやらると云ふ事は是は全く時代遅れの、是は賣國的の考と言つても差支へないのであります、現在食糧が無いから人口は殖へては困るといふ事は是は我儘の考である、殊に此の頃のやうに生活の程度が無暗に高くなつて、無暗に奢侈の風が増して来て、一人の生活費が非常に殖へて来た、日本人の一人で食ふ米は一石食ふのであります、それが年々増加して来て年々何百萬石と云ふものを潰して酒を作るとか云ふやうな事をやつて居る、現に日本人程生活費の高い國民は殆んど世界

中にないのであります、其の人間が自分達の我儘な生活をする爲に後に生れて来るべき子供を減らして今後には日本が如何に衰へるかといふ事も考へずに、今の生活が苦しいから今少し樂をする爲に人間の數を減らすといふ事は、是は自殺的の行爲であらうと思ふのであります、人間が働く以上は食物は食へるのであります、日本だつても耕作すれば幾らでも米は取れる、内地では難かしいかも知れませぬが、朝鮮に行つて見ますと、まだ朝鮮の米はまだ少ししか作られてない、で之を耕作すれば日本の食糧問題は直ちに解決するのであります、私は昨年十一月に西伯利亞の方に参りました、ハルビンに参つたのであります、此處は御承知のやうに日本の樺太と同様に寒い所でありまして、一年の内半ヶ年は氷が張つて居るといふやうな所であります、そこで米が百萬石も取れるのであります、で今日日本人が本當に自分の食ふ米を作つて行く積りでありますれば、年々百萬人以上人口が殖へても困らない程米は出来るのであります、それを今日日本人は此の狭い所に居つて成るべく勞働をせず精神的の活動をして、さうして樂に暮さうといふ考があるものでありますから、人口といふものを成べく減らした方が宜しいといふやうな考が起る、是は日本人が自殺する事を考へて居るといふ事にしか考へられないのであります、是は歐羅巴の婦

人と日本全体の考は全然正反對であるので、是は一番大切な點であると思ふのであります。それからもう一つ世界戦争以後歐羅巴婦人の活動として、皆さんに御参考になると思ひます事は歐羅巴では只人間を殺しただけでなしに、物質上の損害も非常に受けて居ります。是は先程申上げましたやうに四年四ヶ月間に一萬億圓の金を損して居る、で何れの國も世界戦争の影響を受けて借金で困らぬものはないのであります、殊に私の長く居りました佛蘭西等では昨年の統計に依りますと佛蘭西の國債高が約五千億フランであります、一フランが日本の四十錢であるから、日本の國貨に直しますと、借金が二千億圓ある、日本でも今日は借金が殖へて居りますが、何十億といふ位に過ぎない、それに佛蘭西は二千億圓借金があるのであります、之を一步の利子としましても一年に二十億圓になるのであります、之れを三步としますと、六十億圓も拂はなくてはならぬのであります、昨年の日本の豫算が十七億圓と言つて騒ぎましたが、佛蘭西の借金は其の利子だけでも三步と見積つても六十億といふものを拂はなくてはならぬ、又其の外に普通の國費といふものも要るのであります、昨年あたりの佛蘭西の豫算を見ますと、豫算の六割といふものは國債とか何とかの利子に拂はなくてはならぬのが、此の間日本で銀行の支拂停止があつて、十五銀行が潰れ

たとか言つて騒ぎましたが、それ所の騒ぎではないのであります、もう迎も御話になぬら程佛蘭西獨逸の財政といふものは亂れて居るのであります、日本でも一昨年或は一昨々年迄は關東の震災なんかの爲に、日本の國の財政は苦しくなりました、日本の國の價值が下つたことがあります、其の時は日本の金百圓出しますと、亞米利加では約四十九弗位呉れたものであります、一弗は日本の二圓であります、それ位呉れました、又もつと下つた日には三十八弗幾ら位しか呉れない、即ち二割以上日本の金が出つたのであります、それです、今迄蓄音機のレコード等を買ふとする時に、今迄百圓で買へた物が百二十圓出さなくては買へないやうになつたのであります、併しまだ二割か三割しか日本の金が出なかつたのであります、昨年一月に私が佛蘭西に参りました時には、佛蘭西の貨幣は、平常の價值の五分の一になつた、佛蘭西の一フランは日本の四十錢でありましたのが、昨年一月には僅かの八錢でありました、それが爲に佛蘭西では私の行つて居る間只半年の間に内閣が三回も代つたり五回も代つたりしたのです、それは佛蘭西の財政を持つ事が出来ない、其の内閣の代る度毎に佛蘭西の貨幣の價值が下つて来て、昨年の七月二十三日には社會黨が内閣を組織して一日半で代り、今度は現在の舉國一致内閣になりました、ポアン

カレーが總理大臣になりましたから、稍々持ち越すようであり、平常ならば四十錢であるべきものが四分の一になつて來たので、四十圓の月給を取つても、十圓の價値しか持たないやうになつたのであります、其のように佛蘭西では平常に比較すれば其の貨幣の價値が五分の一になつて居るので自分の財産が總て五分の一になつたので百萬圓の金持であつても、これでは二十萬圓の價値しかない、さういふ譯でありますから佛蘭西の婦人が節約をする事は、是は實に驚くべき程であるのであります、日本の婦人等は佛蘭西の婦人といふ者は極めて贅澤なものであると思はれませう、婦人の流行は總てパリであるが、是は極く一部の社交界の事で、日本でいふならば花柳界の様なものさうであつて、佛蘭西婦人全体は極めて質實なものであります、女學校當りの子供達の持物の質素なものには實に驚かされるのであります、彼の洋服でもそれはもう破れた所に布切れで縫ひ洗ひ洒して、色の醒めたような物を着て居りますが、其の破れた所は自分くで寄麗な裝飾を施して面白い模様を作つて居る、是は私が昨年私の妻と一諸に行つたのでありますから、さういふ點は妻がよく見たのであります、がさういふ點は實に上手にやつてあるさうであります、私にも分ります事は向ふの小學校生徒の學用品の質素な事であり、帳面を調べて見ます

と殆んど隅から隅まで書いてある、又鉛筆等でも殆んど持たれぬ様になるまで使つて居ります、又其の持てない様になりますといふと、鉛筆挾で以つて書くとして鉛筆の心が三分か五分位になるまで使ふ、それでなくては佛蘭西人は暮して行かれない、日本人の能く言ふ事であり、外國の家庭では裁縫する事は無いといふが、是は全然嘘であります、私が知つて居ります、パリ大學の先生であります、是は老先生であるに拘らず今では月給の高が實際の價値は五分の一に減つて居りますが、其の収入は私の半分位にしかなつて居らぬのであります、兎に角其の奥さんは苦心慘憺で以てやりくりをしてやつて居る、其の奥さんはもう六十何歳であります、其の御子さんに娘さんが一人ありますが、それも他所に行かず、もう三十位であります、その二人して家内の一切の裁縫をやられる、もう男の背廣服から外套まで一切拵へられる、其の内何かいふ物だけは出來ないから、是は仕立屋にやるといふ事を言はれて居ります、其の外には仕立屋に拂ふやうな金は一文も出さないといふ事であり、さういふやうに暇がありさへすれば何かやつて居る、又其の暇には書物を読んだり、何かして居るといふので、實に感心敬服せざるを得ないのであります、それ程一生懸命にやらないと逆も食つて行けないのであります、それで己むを得ぬ

爲でもありませうけれども、兎に角今の佛蘭西の婦人は實に死物狂ひで働いて居る有様であります。

獨逸に行て見ますといふと、是又實に哀れな程であります、獨逸は御承知の様に大戦争に敗けまして多額の償金を拂はなければなりません、六百六十億圓といふ連も澤山の償金を三十ヶ年の間に拂へといふ事を言はれたのであります、其の中多少は安くして貰ひましたけれども免に角多額の償金を拂はなくてはならぬ、それはかりならばまだ宜しいのですが、其の間には戦争の爲に非常に破れた後仕末をして行かなくてはならぬ、又日々の生活費も要るのであります、恰度日本で此の關東の大震災に後仕末をして行かなくてはならぬ窮狀に在ると同様であります、獨逸はあの四年四ヶ月間の戦争で經濟的には非常に困つた、只今佛蘭西の狀況は申上りましたが、貨幣の價值が十分ノ一に下つたと言ひましたが、獨逸は十分ノ一所でなく百分ノ一千分ノ一と云ふやうに、殆んど貨幣の價值は無いやうになつた、それで物價は百倍にも千倍にも殆んど底知れずに騰貴したのであります、最も高かつた時には電車に一回乗るのが、日本の金に致しまして、七十五萬圓程拂はなくてはならない、さう云ふやうに總ての物貨が騰貴したので、俸給生活者は實に塗炭の苦しみを嘗

めたのであります、それはもう戦争中からしてさう云ふ苦しみを味つて今日に至つて居りますから、獨逸人は佛蘭西人以上に節約をして居るのであります、戦後の今日に於ても此の砂糖と云ふものは非常に少なくなつて居ります、戦争中にはコーヒーの中に砂糖を入れると云ふやうな事は絶対にしない、私の知つて居る人が戦争中には砂糖を使はなかつた、戦後の今日に於ても此の砂糖をコーヒーの中に入れると云ふ事をせずして、一家中一箇の角砂糖を嘗め廻はしたと云ふやうな事があつたと云ふ事であり、實に非常な節約をしたものであります、今でも獨逸の小學校の子供は伯林當りでも靴は履かない者があり、帽子を持つて居ないのであります、伯林大學の學生でも帽子を持つて居る者は幾人も居らないのであります、私の友人が伯林大學に居りました時に、或る實驗をするのに實驗の手傳ひを獨逸人の學生にさせて居つた、其の報酬として約五十マーカー月々やつて居つた、一マーカーは日本の五十錢に相當しますから二十五圓であります、其の獨逸人は親元から送金を受けずに此五十マーカーで月々やつて行つて居つたのであります、日本では私の教へて居ります京都大學の學生は一月六十圓或は百圓以上も使ふ奴が随分澤山居りますが、昨日此方の高等商業學校の校長に問ひました所、高商學生は一月三十圓でやつて行く、下宿して居

る者で四十圓位と云ふ事でありませうから、是は非常に節約されて居ると思ひますが、それでも此獨逸人の學生に比較して見ますと、まだ節約と言つても贅澤だと思ひます、が先づ二十五圓でやつて行く、それは非常に無理なやり方ではありますけれども、日々それだけでやつて行つて居る其の學生のやり方を聞いて見ると、朝食はパン一ツとコーヒー一杯であります、其のパンも日本では六錢か七錢位致しますが、獨逸では殊に國の食物として國家が補助してやつて居るから、一つが二錢五厘から三錢位で買はれます、それにコーヒー一杯であるから約朝食は三錢五厘か四錢位で済むのであります、晝食はサンドイッチと言ひますが、それを新聞に包んで學校に持つて來て學校で食堂と云ふやうな事がありませぬから水道の水を飲んでそれで晝食を済ませるので五錢位も掛からない、で煮物を食ふと云ふ事は夕食だけでありまして、夕食には多少贅澤をしますが、先づ一日の食費が節約すれば三十錢で済む、それから部屋代が日本は非常に高いのであります、家根裏の窓の一ツしかないやうな所でありませうれば、月に五圓位で幾らでも貸して呉れる、そんな所でもう破れた椅子に腰を掛けて居るやうな者が随分澤山ある、さう云ふ所でやつて行けば一ヶ月二十五圓位で暮せない事はない、獨逸の學生は斯う云ふやうな極めて質實剛健の生活をして居

るのであります、さうして戰敗の跡を顧みて興國の觀念を抱き今日の獨逸人の頭を此の考が往來して元氣にやつて居る、日本でも明治維新前後には燒薯を食つて天下の事を論じたと云ふ事でしたが、それが何時の間にか立派な洋食になつて、昔は僅かに三錢か五錢位になつて居つたが、それが一圓になり或は三圓五十錢位にもなつたのであります、日本國で今日は一般に贅澤になつた、私の子供が女學校に行つて居りますが、それとパリヤ伯林當りの女學校の生徒に比較して見ると逆も贅澤なのに驚きます、女學生でも中學生でも鉛筆何んかは一回か二回しか使はないのにもう何處か無くして仕舞ふ、又帳面でも僅かに五六枚しか使はないのに、もう無くして仕舞ふのであります、さう云ふ様にとても物を粗末にする、私の子供でも宅に居てさへ伯林大學の學生よりも、もつと余計に金を使つて居るかも知れぬ、さう云ふ様にもう全体の學生の學用品が贅澤になつたのもう質實剛健と云ふ美風が地を拂つて仕舞つたのであります、此の金を余計に使ふと云ふのは乞食根性と思ひます、詰り貧乏人だけ余計に金持ちの様に見せかけるのであります、さふ云ふ考が今日の日本人には上から下まで浸込んで居る、それで生活が非常に高くなつて、それに比較して能率は少しも擧らない、私が歐羅巴の宿屋と滿洲の宿屋に泊つて見ると其の宿料が滿洲

の方は歐羅巴の二倍も三倍も高く取られる、日本の宿屋は宿料の高いのに驚きます、又其の上には茶代とか云ふものが要る、で日本は世界一の宿料の高い國であります、又一般の飲食物も歐羅巴に比較して極めて高いのであります、歐羅巴では酒の一瓶が五錢であつた、それが此の間十五錢になつた、私が大正二年に西伯利亞を通つて居つた時には瓶を付けて十錢であつた、其の瓶を返してやれば五錢であつた、今日は稍々物貨が騰貴して居りますが、併しさう大した違ひはない、麩麵とか牛乳とかは又格段に向ふは安い、私はバリーで洋服を拵へましたが、向ふでは二十圓から二十五圓位で一着出來ます、又靴一足が二圓五十錢から三圓位であります、此の靴は向ふで作つたものであります、それと同じ物を日本で聞いて見ると此の洋服でも六七十圓位であり、靴も一足十圓位はしやうと思ひます、何故斯様に物貨が高くなつたかと申しますと、此の歐洲大戰の結果日本に金が澤山入つて來たからであります、その結果一時に物貨が騰貴したのは己むを得ないのであります、それを歐羅巴では戦争が済むと直ちに物貨が元通りになりました、或は違つても一割か二割か三割位しか違はないのであります、それなのに日本はどうかと云ふと、今でも依然として二倍以上三倍位の値段を保つて居るのであります、それで將來日本人が外國と競争をしようとして

も、逆も此の状態では競争は出來ない、其の實例は第一滿洲に於て日本の勢力範圍に於ても日本人は外國人と、競争する事が出來ない、滿洲で土産物を買ふ爲に支那人の店に行つて小さな時計を買ひましたが、其の時が只の七十錢でありました、日本内地に於て時計が七十錢で買へると云ふ事は殆んど夢にも見られない事であり、その時計は今でも可成正確に動いて居る、其の時計は何處で出來たかと云ふと獨逸で出來て居る、それを大連に持つて來た、大連は御承知の様に税關のない國でありますから日本の内地には逆もそれ位では出來ないのであります、それも支那人の所でなくてはそれ程廉くは賣れない、滿洲に於ては内地に居る日本人よりも、もつと贅澤な生活をしております、滿洲にゐる日本婦人等はまだ女優の様な華やかな服裝をしてゐる、それで非常に生活費が高い所が支那人は極端に其の生活費が少ない、一日十錢で以て飯を食つてゐる、で日本人と競争して勝つに定つてゐるそれで日本人はとても外國人には勝てないのであります、もう商業でも工業でも勝つ事が出來ない、それに日本は此の大戦争の爲に一寸思ひ掛けない金を儲けた爲一般に奢侈の風が流行して來てそれがまだ今日に至つても捨たらない、併しそれでも濟んで行けば宜しいのであります、是では世界と競争する場合にとても勝つて行かれない、此點は

色々なやり方もありませうが、先づ第一に御婦人方が一つ御考へ下さいまして、さう云ふ點を余程嚴重に取締つて頂かなくてはならぬ事であらうと思ふ、小さい事であるが御自分の子供の學用品等に付きましても、色々御考へに成りまして贅澤でなくて安い良い品物を買つて與へる様に、御努め下さいませれば第一それが善くなると思ひます、此の間も新聞で見ますれば日本と云ふ國は昔から輸入超過の國であります、其の中でも此の絹糸、是だけは年々十億ばかりの輸出額を示めしてをりますが、是は亞米利加を引當てに取つてをるのでありますから、是で以て先づ日本の生命を保つてゐる様な辭で、其外のもものは總て西洋から買つてをります、毛織物や米又は木材をも外國から買つてをります、其の様にもう外國から入る物ばかりで賣る物はない、是では日本は年々貧乏になつて行くばかりであります、さう云ふ様にして金の無い辭に外國から色々な奢侈品を買入れてをりまして、文化生活を致してをる様な現在の状態であります、それで現在の日本人の生活振りは子供の爲とか云ふ考は無く、もう現在の生活ばかりを考へて暮してゐる、私は此の歐羅巴の大戦後の歐洲婦人達が如何に復興に向つて一生懸命になつてをるか云ふ事を考へるに付けて、日本人が……今日の日本婦人が現在の生活を享樂すると云ふ事に余り注意が向き

過ぎて、將來の事を考へると云ふ事を忘れてゐる様な傾向が無いか、どうか現在だけを暮して行けば宜しい、將來は何うでも宜いと云ふ事は是は動物のやる事であつて、動物は今目前に物があれば幾ら満腹でもそれを食ひ、後に無くなれば幾日も食はずにをると云ふ事をやりますが、人間は今目前に色々な物が在る、それを一度に取つて食はずに後に物がなくなつた時、出して食ふと云ふ事をやるのが人間の特長であります、今の日本人の生活は何れかと云ふと或は動物の生活に近い生活ではあるあるまいかと思ひます、さてさう云ふ生活をしてをる日本人は外國と比較して、どうか社會一般の教育と云ふものはまだ歐羅巴に比較して余程低いのであります、義務教育にしても日本は僅かに六ヶ年である、外國では八年である又其の上に社會教育と云ふものは、まだ日本には殆んど行届いてをりませぬ、其の上にもまだ一般の社會の人々の考方と云ふものが、どうしても歐羅巴に比較して三十年は遅れてをると思ふ、それであるから今現代人は歐羅巴の眞似をして文化生活をしてをりますが、其の様にして一時の生活の楽しみを貧つても其の後は、如何なるか云ふ事には日本人は考へ及ばない、是は詰りまだ日本人の教育の程度が低い爲であらうと思ふ、で昨年一ヶ年歐羅巴にをりまして色々な點で感じたのであります、一段強く感

三二

じました事は今日申しました二點にあると思ひます、それを要約しますれば第一が歐羅巴人が人口問題に非常に苦しんでゐる事、日本と反對に如何にすれば人口を殖やす事が出来るかと云ふ事を苦しんでゐると云ふ事と、第二點は歐羅巴に於ては非常に經濟問題で苦しんでゐる、其の結果歐巴人全体が非常に節約をやつて、質實剛健の暮しをして、其の難關を突破しやうと努力してをるといふことであります、此の點は男よりは婦人の關係する問題であつて従つて、今日の歐羅巴の婦人といふ者は本當に眞劔になつて、此の方面に對して努力してゐると思ふのであります、先程も申し上げましたやうに歐羅巴では家庭を熱愛する所の母性愛に燃へてゐる婦人が自分の將來の子孫を樂にさせやう、將來の社會を能くしようといふ爲に現在の生活を成るべく節約して、子の爲孫の爲に働いて行く、其の家庭を治めて行く爲に社會的に能くして行くといふ事に注目して、眞劔に働いてゐるのであります、是は本縣に於ける婦人の先覺者の方々が御集りになつてゐる、斯ういふやうな席上で歐羅巴の婦人が、極めて眞面目に一生懸命に働いてゐる有様を御考へ下さいまして、さうして現在の日本婦人の社會又一般の社會が如何に緩んでをつて、如何に奢侈で放漫であるかといふ事を御考へになり、之を矯正するに付いて何とか工夫がなからうといふ事を御考へ下さいまして、御聲援下さいませれば非常に有難い事と思ふ者であります。

317

280

17
20

昭和三年三月二日印刷
昭和三年三月十二日發行

發行者 山口縣

山口縣吉敷郡山口町下立小路

印刷人 齋藤定熊

全上

印刷所 共映社

同... 昭和三年三月二日印刷... 昭和三年三月十二日發行... 山口縣吉敷郡山口町下立小路... 齋藤定熊... 共映社

終